

普及活動情勢報告（令和4年5月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

安芸・室戸地区農村女性リーダー総会の開催



4月21日に安田町ふれあいセンターで、安芸・室戸地区農村女性リーダー協議会総会が開催され、16人が出席しました。前年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会「つどい」は開催できたものの十分な活動ができなかったことから、今年度は小グループでの研修を企画することが決定しました。

農業改良普及課では、総会前の役員会で、昨年度実績のとりまとめや今年度の計画策定を支援しました。

農業改良普及課は、今後も農村女性リーダーの自主的な活動を支援していきます。

東大野集落営農組織役員会



4月25日に東大野集落の大野倶楽部(集会所)で役員会が開催され、役員および関係機関計14人が出席しました。

会議では、令和5年度に機械を導入し取り組む予定の稲WCSの刈り取り作業等について協議し、次回は畜産農家も交えて検討することになりました。農業改良普及課は、役員会が円滑に進むよう、役員会の議題について関係者と事前協議し支援しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し耕畜連携や稲WCSの作業受託組織のルールづくり等を支援していきます。

奈半利町園芸研究会を開催しました ～奈半利支部ナス部会～



4月25日、農業改良普及課は、中芸営農指導員2人・奈半利支部ナス部会員2人とともに、新規就農者ほ場を中心に町内の施設ナス栽培ほ場（5戸）を巡回し、現在の栽培の様子、これまでの収量、病害虫の発生状況について共有しました。すすかび病やセンチュウの発生、苦土欠、つやなし果が認められ、4・5月の栽培管理資料をもとに、温度や灌水の適正な管理について周知しました。

いずれの生産者も、収量が多いものの、単価が安いことに不安感を抱いていました。

農業改良普及課は、営農指導員などと情報共有し、営農相談会や個別巡回等を通じて生産と経営の安定を支援していきます。

伝統野菜の「ぼたなす」を守ろう ～集落活動センター「ひなたぼっこ」総会～



5月9日、室戸市日南集会所で日南・大平集落活動センター「ひなたぼっこ」が令和4年度総会を開催し、会員8人が参加しました。

総会では令和3年度の実績、令和4年度の計画について協議しました。農業改良普及課は、地域資源である伝統野菜の「ぼたなす」を守るために、系統保存や面積確保に向けた栽培ルールの方針を提案しました。会員からは「良いぼたなすを残すにはルールが必要だ」とのフォローもあり、策定することで合意されました。

今後も農業改良普及課はぼたなすの生産振興を中心にひなたぼっこの活動を支援します。

カメラによるナスの開花数・着果数データの診断と活用について意見交換



5月12日、農業改良普及課は、農業イノベーション推進課及び農業技術センターと安芸市と芸西村のIoTクラウド「SAWACHI」協力農家10戸のほ場を巡りました。

ほ場には、ナスの花数・実数を自動計測するカメラが設置されており、安定して測定するには、レンズの汚れを拭くなどメンテナンスの重要性と、「SAWACHI」の画面を見ながら農家と改善点を確認・共有しました。農家3人からは、カメラ位置やカメラでのカウント数と目視でのカウント数の精度などについて意見がありました。

農業改良普及課は、今後もIoTクラウド「SAWACHI」のデータが生産振興につながるよう、生産者および関係機関と情報を共有していきます。

ナスすすかび病菌の薬剤感受性低下程度の確認



5月13日、農業改良普及課は、農薬メーカーと農業技術センターで、安芸市と芸西村のナス農家4戸のほ場を訪問し、すすかび病の罹病葉を採取しました。罹病葉は、農業技術センターと農薬メーカーが、すすかび病菌の薬剤感受性低下程度の確認および占有状況を把握する試験に使用されます。

農業改良普及課は、農家から栽培品種や殺菌剤の選定方法、今作での殺菌剤の使用履歴を聞き取りました。農家からは、「栽培暦等を参考にRACコード等を確認して、同一薬剤の連続使用にならないように選んでいる」などの回答がありました。

今後、農業改良普及課は、より効果的な病害防除体系の作成等に試験結果を参考する予定です。